

2011年6月

### カナダ自治体連合総会（FCM）に出席

2011年6月3日から6月6日にわたってカナダ・ハリファックス市で開催された「カナダ自治体連合総会 FEDERATION OF CANADIAN MUNICIPALITIES（FCM）」にJLGC職員が出席しました。

FCM（FEDERATION OF CANADIAN MUNICIPALITIES）は、カナダ国内に所在する自治体がメンバーとなっている組織で、1901年に発足し、加盟数は2000を超える大きな組織です。カナダを代表するトロントやバンクーバーといった大都市の自治体から郊外の小さな町の自治体までさまざまな自治体が参加しています。

このFCM総会はFCM参加自治体の首長や議員を招いて年一回行われるカナダ国内での一大イベントです。

このFCMはカナダ政界にも大きな影響力を持っており、FCM総会に招かれるゲストスピーカーには、与党大臣、野党の党首等の大物政治家や著名人が招かれます。

その他、総会の開催に合わせてトレードショーも開催され、今回の総会では、LEDを使った街頭照明器具や風力発電装置等のエコ関連の商品の出品が目立ちました。

また、スタディーツアーやコンパニオンツアー、各プログラムセッションなど多くのイベントが開催され、参加者は自分の興味のある分野のイベントにそれぞれ参加することができます。



FCM総会のロゴ



ハリファックス市の町並み



ハリファックス市の名所：町を見下ろす丘に位置するオールドタウンクロック

【NIK NANOS NANOS RESEARCH 社長によるスピーチ】

NIK NANOS 氏はカナダの世論調査会社 NANOS RESEARCH の CEO 兼社長であり、2006年のカナダ連邦選挙で4大政党の得票率を0.1パーセントの単位の差まで予想したことで有名で、スピーチでは、過去の選挙結果をパワーポイントを交えて説明、ケベック州、オンタリオ州等の地区別での政党獲得投票数の違いの原因等を解説しました。



スピーチをする NIK NANOS 氏

【JACK RAYTON 新民主党 (New Democratic Party) 党首によるスピーチ】

JACK RAYTON 氏はカナダ議会の最大野党である新民主党党首であり、同氏が党首就任後、新民主党は党発足以来最も多く議席数を獲得、新民主党発党以来最も成功した党首であると言われています。JACK RAYTON 氏は、自分自身、自治体首長の経験もあることから、「自治体は常に連邦政府の助力を必要としており、道路、上下水道等に代表されるインフラ整備をさらに行うことにより、雇用を創出し、人びとの生活の質を

向上させることができる」等と訴えました。

【DENIS LABEL 運輸・社会資本・地域社会大臣 (Minister of Transport, Infrastructure and Communities) によるスピーチ】

Label 大臣は、現役与党大臣であり、政府の方針を説明するとともに、FCM 参加者に対して「自治体、州、連邦が協力し合い、カナダの道路、橋、公共交通機関等のインフラ整備に力を入れることで、経済を活性化させ、カナダ人の生活の質を向上させることができる。」と訴え、将来に必要なインフラ整備の自治体と共に行っていくことを約束しました。

【スタディーツアー：From Disaster To Opportunity A Story of Two historic Parks】

2003年9月に発生したハリケーンジェーンにより、壊滅的な被害を受けた2つの公園 (Point Pleasant Park & The Public Gardens) に対してハリファックス広域自治体 (HRM: Halifax Regional Municipality) がどのように再生計画を立て、それを推進したかについてその2つの公園を実際に訪れ、担当者の説明を聞きながら、視察を行いました。

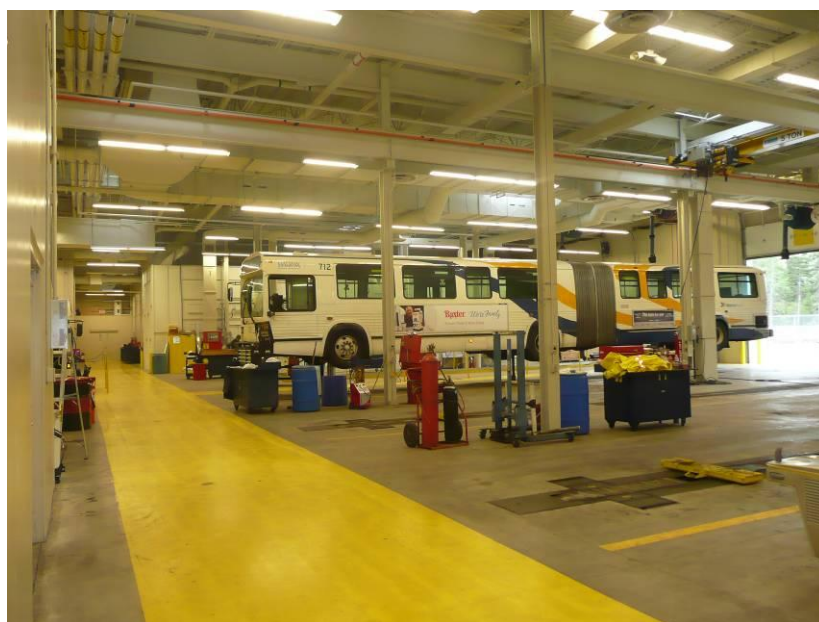
公園内のほとんどの木がハリケーンによってなぎ倒されましたが、50パーセントを自然、50パーセントを人間の手による公園再生を行い、専門家の助言を得つつ、さらに住民の憩いの場所とするため、ただ木を植えるのではなく、木が生い茂った際の景観を計算し、眺望等も良くする工夫を行ったということでした。



説明をする HRM の職員 (中央)

【スタディーツアー： On the Bus - Moving the Modal Split】

このスタディーツアーでは、ハリファックス市の交通局（バス、水上バス）がどのようにして2004年から2009年の間に利用率を24パーセントも引き上げたかについての説明がなされました。2010年に町の郊外に建設された最新式バス車両基地に案内され、車両の整備設備や新型車両等の見学を行いました。利用率を上げる方法については、徹底した顧客（住民）調査を行い、顧客のニーズに合ったサービスを提供することに尽きますということでした。



整備中のバス（二車両を連結したようなバス車両）

【セッション： Diverse Cities Marketplace : Successful approaches to settling new Canadians in communities from Teslin to Toronto to Truro】

このセッションでは、それぞれの自治体での移民受け入れのためどのような工夫をおこなっているかのプレゼンテーションが行われました。

受け入れた移民に対する教育を行ったり、移民が社会に溶け込めやすくするためスポーツ大会を主催したり、各種催し物への参加を呼び掛けるなど移民を孤独にさせないことが重要であると強調していました。

また、オンタリオ州のノースベイ市のホームページでは、ノースベイ市の良いところ悪いところ、移民のためにどのような手続きが必要か、また、カナダに着く前、着いた後その日から何をすべきか等が詳しく書かれたホームページを作成していました。

## ノースベイ市移民関係のホームページ

The screenshot shows the homepage of the North Bay Immigration website. The header includes the North Bay Ontario Canada logo, navigation links (Home, Contacts & Resources, Contact Us, Sitemap), a text size selector, and social media icons (Twitter, Facebook Like, Send). A main navigation bar contains links for Why Choose North Bay, Before You Arrive, After You Arrive, Living & Working, Employers, and Features. The 'Before You Arrive' section is active, featuring a sidebar with a list of topics such as 'How To Apply', 'Documents You Need', 'Talk to Someone in North Bay', 'Immigration Lawyers', 'Finding a Place to Live', 'Cost of Living', 'Working In Your Profession', 'Investing or Starting a Business', 'Health Insurance', 'Health & Immunization Requirements', 'Money & Credit', 'Driving in Canada', 'Packing & Customs', and 'Keep in Mind'. The main content area has the heading 'Before You Arrive' and a paragraph stating: 'In many ways, it is likely that Canada is different from your home country and there are lots of things to be aware of before beginning your trip. This section will help you with everything you need to know and do before you arrive.' Below this text is a photograph of a family (a man, a woman, and two children) sitting at a picnic table outdoors in a park-like setting. The footer contains logos for Ontario, Citizenship and Immigration Canada, and Citoyenneté et Immigration Canada, along with copyright information (© Copyright 2009 City of North Bay) and design credits (Designed by eSolutionsGroup).

(参照:<http://www.northbayimmigration.ca>)

### 【セッション： Deciding to host a National Repository for Used Nuclear Fuel: Swedish Experience】

このプレゼンテーションはスウェーデンの二つの自治体からによるもので、主にどのように住民を説得し、核廃棄物の受け入れ場所の権利を連邦政府から獲得したかというものでした。スウェーデンは電力の45%を原子力発電（その他54%が火力、1%が風力、水力等の自然エネルギー）に頼っていて、核廃棄物を受け入れるということは、国からの補助金（核廃棄物ファンド）を受け取れるだけでなく、その施設建設、運営等に伴う雇用の創出を行うことができるという面が強調されていました。

セッションの質疑応答では、日本の福島第一原発の事故の話が一番の話題となりましたが、福島原発の事故後においてもスウェーデンでは80%以上の国民が原子力発電に対して賛成であるとのことでした。

「ネガティブ面はないか」という質問に対しては、「10年以上の間、核廃棄物を管理しなければならない、その間には何が起こるか分からない」という回答をしていましたが、「10万年も時間があれば、もっと良い核廃棄物の管理方法も見つけられるだろう」と言った楽観的な意見も出ていました。

**【セッション： Housing first: Breaking the costly cycle of chronic homelessness】**

本セッションでは、コストのかかる慢性的ホームレス対策を自治体としてどのように対処していくかのプレゼンテーションが行われました。

本セッションで最も強調されたことは、まずホームレスのための住宅を用意し (Housing first)、その後、各種プログラム (医療が必要なものには医療を、メンタルケアが必要なものにはメンタルケアを、その後仕事を与える) を行うという内容でした。

あるホームレスに対して、警察が出動する、救急車が病院に搬送する、シェルターに入居させ、その後退去させることを繰り返し、年間3000ドル以上の費用を使ったにも関わらず、その者は未だにホームレス生活をしているという例が挙げられ、もしその3000ドルを住居費や各種プログラムの運営費を当てればホームレスを削減することができ、さらにホームレス対策費も削減させることができるという説明がなされました。

**【セッション： Let's Make a Deal: Partnering With the Private Sector in Brownfield Development】**

本セッションでは、低利用で荒廃した土地 (Brownfield) の再開発を民間セクターとの連携で進めるための情報交換を目的としたプレゼンテーションが行われました。

「社会・経済・環境の3要素を統合した持続可能なコミュニティの形成」と「荒廃した土地の改良による都市再活性化」という2つの目的が紹介され、開発により市民の健康と治安の確保、雇用の創出、地域の再活性化、都市インフラの再利用、税収増等が期待できるとの説明がありました。

課題としては、既成市街地での開発となるために地域改良のプロセスが必要となりその分コストや時間がかかり、ファイナンスが困難になるというものでした。

続いて、古くなった工業地域と住居用地域を組み合わせる巨大な環境配慮型研究開発施設として再開発する取り組みや町の入口にあたる場所にあったガソリンスタンドを水処理施設に転換したプロジェクト、古い鉄道施設を900戸の住宅と2つの鉄道駅に転換するプロジェクト等の成功例のプレゼンテーションが行われました。

いずれの再開発計画の成功にも共通するのは、民間パートナーとウィンウィンの関係を築きながら採算を確保しつつサステナビリティ (持続可能性) の確保と地域の魅力向上を達成することができたという点でした。

**【セッション： Plenary panel: How Municipalities Can Access PPP Canada】**

本セッションは、自治体による官民協力事業 Public-Private Partnership の更なる利用促進のためのプレゼンテーションでした。

PPP カナダファンド (カナダ連邦政府によって設立された政府機関) には、PPP 事業を支援するための12億カナダドルの資金があり、また、官民協力を行うことにより、

専門知識の活用と迅速な開発、そしてリスクの軽減を図ることができると説明されました。

PPP カナダファンドの支援対象は、従来の道路、橋の建設、補修、上下水道の整備、その他交通網、インフラ整備に限られており、学校建設等は対象とされていないということでした。